

# 令和2年度研究推進計画書

学校名 伊丹市立笹原中学校

校長名 菰口 太志

## 1 研究形態 準備校2

## 2 学校教育目標

予測不能な未来を自立して生き抜く 知・徳・体バランスのとれた人間力ある生徒の育成

## 3 前年度の研究

### (1) テーマ

社会とつながり、主体性を持ち、進路実現に向かって学び続けるキャリア教育の実践と検証

### (2) 成果と課題

#### 【成果】

- ・授業のユニバーサルデザインを基本とした授業づくり、環境づくりの実施
- ・各教室の掲示物、ICT 機器の整備
- ・確実に「ふり返し」を行うシステム（サクセスシート）の計画、実施
- ・1人1授業の指導案を研究推進委員会で検討した
- ・伊丹市教育委員会指定研究発表会の実施。
- ・「キャリア教育」の研修の実施。職員がキャリア教育の理解を深め、出口指導ではなく将来に生きる教育を行なっていく必要性を理解できた。
- ・笹トレの継続実施。学校評価の「笹トレで教え合いは学力向上に効果がある」という項目において肯定的意見が80.4%と高い数値を示している。生徒も教え合い、チーム学習に対し効果を感じ、笹中の文化として笹トレが認識されている。
- ・「笹中地域サポーター制度」の運営・発展。ボランティアに5回以上参加した生徒をボランティア・マスター、10回以上参加した生徒をキング・オブ・マスターに認定した。昨年度は、マスター32名、キングが13名となった。さらに参加している生徒もいるため、MVS（Most Volunteer Sasahara）として年間最多参加者を顕彰する。学校評価の「地域活動に参加している」という項目において、前年度と比較し5ポイント上昇した。
- ・道徳においてローテーション授業を2学期に全学年で実施した。3学期に市内公開授業を実施。

## 【課題】

- ・「教育UD化」・「笹トレ」開始時の教職員が少しずつ減ってきている。新転任者の教員へ「笹トレ」など本校の取り組みを一緒に取り組めるように年度当初の研修を企画・実施していく必要性がある。
- ・授業でのめあての提示・ふり返りの実施を継続して行う。生徒自身が今何のためにこの学習をし、将来にどうつながるのかを授業者が言葉で説明し認識させる。
- ・ふり返りの質の向上。現在は、書くことはできているがその反面、その後の学習へのつながりが見えず、発展していない。授業者がふり返りを見て、生徒にどのように学習すればよいのかといった発展的なアプローチを行っていく。
- ・クラス数の減少するため、笹トレシステムの見直しが必要である。昨年度より出ていた、笹トレを1対1の学習へ発展させるいい機会でもあるため、再検討を行う。また、7校時扱いとしていた笹トレであるが、清掃時間に影響し、負担の大きい部分もある。時間の取り方の再検討し、次年度は総合の時間内に実施を計画する。
- ・異学年での教え合い、学び合いのさらなる充実。笹トレを基盤として、先輩から学ぶ・後輩へ伝える場を計画的に実施していく必要がある。
- ・「授業で話し合いや発表をする場面で、積極的に発言できる」という質問項目においてAB評価が64.5%である。昨年度から2.9ポイント上昇しているものの、生徒に話し合いのいいモデルを共通理解させ、わかりやすい伝え方や発言の工夫を様々な授業で伝えていく。
- ・教科化された道徳授業だが、所見を含め負担感の強い教員もいる。授業者にとって、十分な教材分析にはまだまだ時間が不足している。また、ローテーション道徳以外の時間が担任の時間になってしまっている。若手も増えてきているので、副担任も積極的に道徳授業に関わり、さらなる発展を考えていく。
- ・キャリアパスポートの実施に伴い、職員の共通理解を行う。
- ・マナー講座やSDGsなど総合の時間によい取り組みをしているが、学年裁量の部分が大きく学年が違うとできなかつたという取り組みもある。総合の時間に取り組む内容について計画的に運営・実施することでさらなる発展を図る。

#### 4 本年度の研究

##### テーマ

主体的・対話的で深い学びを促すプロジェクト型学習の創造

～思考力・判断力・表現力の育成を目指して～

##### (1) テーマ設定の理由

###### ① 令和元年度教職員アンケートの意見【令和元年12月実施】

###### ・自主性主体性の欠如

生徒が目標をもち、主体的に動くことが少なく、計画性がない生徒が多い。

###### ・学習者中心の授業への転換が必要

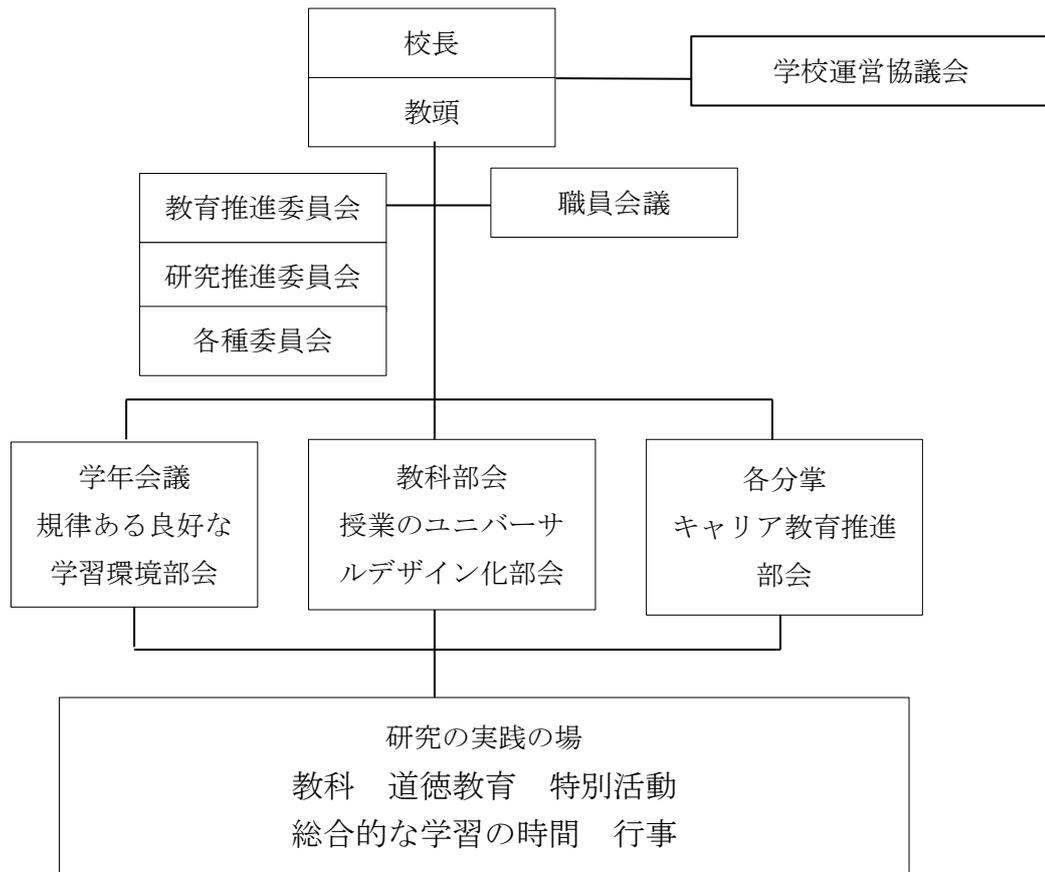
「何を教えるか」「どう教えるか」といった教師側の論理や技術に重きが置かれてきたが、生徒の生きる力を育むためには、教師がファシリテーターとなり、学習者自ら課題を見つけて学ぼうとすることが必要不可欠である。

###### ② 学校評価・生徒の実態より

平成30年度より、教育のユニバーサルデザインを基盤として、「キャリア教育」に力を入れてきた。生徒にはめあての提示だけでなく、ふり返りを徹底して行ってきた。「笹トレ」を基盤とした教え合い学習も笹原中学校の伝統として根づいてきた。

しかし、生徒自身が学習と将来のつながりを意識できていないという課題が大きい。1年生ではトライやる・ウィークの準備、2年生では進路学習に取り組んでいる。昨年度11月に実施したhyper-QUでは、「なりたい職業や興味を持っている職業がある」と回答した生徒が75.3%（1年）、68.5%（2年）である。「自分の進みたい職業の分野について調べている」と回答した生徒は48.5%（1年）、46.6%（2年）である。生徒が興味を持っている職業について調べる手立てが持てず、必要な力を理解出来ていない。その為、学習内容と社会のつながりが見えず、学習意欲にも影響している。「学校の勉強は自分から進んで取り組んでいる」と回答した生徒が、69%（1年）、54.2%（2年）だった。各教科の授業を通して、現実社会に関わる真正で複雑な疑問や問題を解決しようとする力を育成する必要があると考えられる。これまでの取り組みを継続し、深めていくためにキャリア教育の具体的な取り組みとしてプロジェクト型学習を取り入れていくこととした。

(2) 研究推進体制



アドバイザー

各授業研究のアドバイザー

( ) 先生

伊丹市教育委員会指導主事

(3) 研究推進計画

研究の方向性

- ① プロジェクト型学習の導入 (探求する力の育成)
- ② 単元テストの実施
- ③ 学習方法のフレームワークの共有
- ④ 家庭学習の充実 (「みんなの学習クラブ」の積極的利用)
- ⑤ めあて、振り返り、評価基準の事前提示の徹底
- ⑥ 授業評価の実施
- ⑦ 笹トレ (教え合い学習) の充実
- ⑧ 1人1公開授業の実施
- ⑨ 確実な検証
- ⑩ 自主研修 (ばんだクラブ) の充実

## 取り組み内容

### ①プロジェクト型学習の導入（探求する力の育成）

- ・ 単元ごとにプロジェクト型学習を導入
- ・ 「課題設定」と「本質的問い」を明確にして、プロジェクト型学習を計画する

### ②単元テストの実施

- ・ 各教科で単元テストを実施することにより、単元ごとの振り返りを行う
- ・ 単元テストにより、よりよい評価をできる仕組みをつくる

### ③学習方法のフレームワークの共有

- ・ 笹トレ、思考ツール、ジグソー法など積極的に授業に合った学習方法を共有する

### ④家庭学習の充実（「みんなの学習クラブ」の積極的利用）

- ・ 個に応じた学習環境づくりとして、「みんなの学習クラブ」の積極的利用
- ・ 自ら必要な学習課題を考え、家庭学習に取り組む

### ⑤めあて、振り返り、評価基準の事前提示の徹底

- ・ めあてと振り返りの強化

学校評価ではめあてと振り返りの実施について高い評価が出ている。「毎回授業でめあてが示されている」が98%、「授業の最後に振り返りを行っている」が88.2%である。昨年度「振り返り」はサクセスシートを全学年で実施した。そのシステムを継続し、今後は教員が質の向上を意図して発展させる。

### ⑥授業評価システムの充実

- ・ 1学期・3学期に授業評価を行い、教師の授業改善に役立てる。

### ⑦笹トレ（教え合い学習）の充実

- ・ 原則水曜日6校時（総合的な学習の時間）に年間約20回の笹トレを実施する。基礎的・基本的な知識技能の習得とピアサポートによる学習意欲の育成を図る。時間を5分延長し、30分とする。
- ・ 笹トレを継続発展させる。今年度は生徒の1対2の教え合いをベースとする。
- ・ 教え合いを笹トレだけでなく、掃除、朝読、集団行動など様々なことを教える。
- ・ 学校評価で「授業で話し合いや発表をする場面で、積極的に発言できる」と回答した生徒が昨年度より、2.9ポイント上昇した。しかし、64.5%とまだ低い。話し合いを行う中で、いい発言をした生徒は褒める等、教師の働きかけを増やす。
- ・ 笹トレチームの編成・配置は、学級担任を中心に行う。
- ・ 教室担当教員のローテーションを行い、各班に対して評価を実施する。

⑧ 1人1公開授業の実施

- ・全教員が公開授業を最低1回は行う。2学期にグループで研究授業を行う。
- ・公開授業実施ウィーク（2週間）を設ける。
- ・公開授業実施ウィークに最低1時間は公開授業を参観しに行く。

⑨ 確実な検証

- ・学校評価の質問内容を考え、生徒や保護者の評価が正しく返ってくるようにする。
- ・学力調査（CRT、全国学力調査）、体力調査、学校評価のデータを注視する。
- ・生徒に学習アンケートをとり、経験則で判断するのではなく数値で判断するようにする。

⑩ 自主研修（ぱんだクラブ）の充実

年間5回程度実施し、教員の指導力向上を図る。外部で受けた研修を職員が校内で伝達する。

（5）研修会の年間予定

月	内 容	月	内 容
4月	生徒指導、進路指導、特別支援学級、生徒支援、	10月	キャリア教育
5月	プロジェクト型学習	11月	道徳教育
6月	授業研究	12月	hyper-QUの分析
7月	hyper-QU等の分析 授業評価	1月	学校評価
8月	小中連携 人権教育 特別支援教育 教育のユニバーサルデザイン 笹トレ 通級指導について	2月	シラバスの作成 CRTの分析
9月	授業研究 校内授業研究	3月	研究のまとめ、次年度に向けて 授業評価

※若手教員の研修を年5回程度行う

(6) 研究領域・教科等

研究領域・教科等（該当するものに○をつけてください）

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 学級経営   | <input type="checkbox"/> 教科・・・教科名「全教科」 |
| <input type="checkbox"/> 総合的な学習 | <input type="checkbox"/> 教育課程          |
| <input type="checkbox"/> 道徳教育   | <input type="checkbox"/> 人権教育          |
| <input type="checkbox"/> 環境教育   | <input type="checkbox"/> 福祉教育          |
| <input type="checkbox"/> 生徒指導   | <input type="checkbox"/> 情報教育          |
| <input type="checkbox"/> 国際理解教育 | <input type="checkbox"/> 特別支援教育        |
| <input type="checkbox"/> 性教育    | <input type="checkbox"/> 評価            |
| <input type="checkbox"/> 特別活動   | <input type="checkbox"/> その他「授業改善」     |